

令和3年度昭和館運営事業計画案について

令和3年度も新型コロナの感染状況を考慮しつつ事業を実施することとする。

1 令和3年度昭和館運営事業予算（案）

	令和3年度	令和2年度	前年度比
<歳入関係>			
1. 昭和館運営委託費	458,590 千円	469,581 千円	△10,991 千円
2. 昭和館運営収入	19,255 千円	19,255 千円	0 千円
合 計	477,845 千円	488,836 千円	△10,991 千円
<歳出関係>			
1. 事務人件費等	55,708 千円	51,303 千円	4,405 千円
2. 管理諸費	157,500 千円	170,156 千円	△12,656 千円
3. 事業人件費等	111,144 千円	115,080 千円	△3,936 千円
4. 資料購入・整備関係	33,310 千円	33,474 千円	△164 千円
5. 情報機器関係	47,000 千円	46,662 千円	338 千円
6. 展示替え経費	6,000 千円	6,241 千円	△241 千円
7. 特別企画展経費	24,666 千円	24,666 千円	0 千円
8. 来館促進経費	21,355 千円	21,228 千円	127 千円
9. その他	21,162 千円	20,026 千円	1,136 千円
合 計	477,845 千円	488,836 千円	△10,991 千円

2 広報活動計画

(1) 昭和館事業のPR活動等

昭和館の事業内容のPR及び春、夏の特別企画展の案内を行い、鉄道車両及び交通機関の主要駅にポスター等を掲示する。また、東京メトロ九段下駅4出口、東西線2番ホーム、半蔵門線3番ホーム、JR飯田橋駅の電飾掲示板に掲示し、集客に努める。九段郵便局、さらに、東京メトロ「TOKYO METORO NEWS」、東京メトロ・東京都交通局一日乗車券特典ガイド「ちかとか」、JTBや千代田区等のガイドブック、毎月発行される千代田区区報に当館の紹介記事を掲載する。

その他、新聞広告等については、主要新聞等や日本教育新聞に掲載をする。

(2) 広報資料の送付等

「昭和館館報」については、都道府県、政令指定都市、東京特別区、教育委員会、老人クラブ連合会、各省庁図書館に対し送付する。なお、都道府県遺族会、類似施設、大学図書館等には、「昭和館館報」と「昭和のくらし研究」を併せて送付し、当館の周知徹底を図る。

また、令和3年6月頃に、昭和館と学校をつなぐ広報誌「昭和館だより」第36号を全国の公立小・中学校・中等教育学校と令和2年度の来館小学校（5年生）・中学校（2年生）、更に、東京都の校長会等で配付依頼した公立小学校（5年生）に発送し当館の周知を図る。なお、令和3年12月頃には「昭和館だより」第37号を送付し、社会科見学等の学校行事としての来館促進を図る。

(3) 刊行物の発刊

以下の刊行物を発刊する。

- ① 「昭和館館報」（令和2年度版）
- ② 「昭和のくらし研究」（第20号）

3 来館促進対策

(1) 常設展示室の入場無料等について

「昭和の日」（4月29日）、「戦没者を追悼し平和を祈念する日」（8月15日）に常設展示室を入場無料とする。

(2) 第20回昭和館見学作文コンクール

令和3年度も引き続き実施する（6月下旬に募集開始予定）。

(3) 第14回昭和館中学生・高校生ポスターコンクール

令和3年度も引き続き実施する（7月上旬に募集開始予定）。

(4) 教員のための博物館体験

体験内容の充実と広報に努め、博学連携を図る。

(5) 貸出キット

貸出キットには、実物資料、グラフィックパネル、証言映像DVD等。

小・中・高等学校、公共団体及び各地の遺族団体に働き掛け、実物資料や展示用パネル等の貸出を行い、さらなる利用促進を図る。

(6) 紙芝居定期上演会

当館所蔵の紙芝居と、ワークショップの要素を取り入れた体験型の上演会を、奇数月の第4土曜日に2階ひろばにおいて実施する。

開催予定日：令和3年5月22日、7月24日、9月25日、11月27日、
令和4年1月22日、3月26日

(7) こども霞ヶ関見学デー

令和3年8月に開催予定の「こども霞ヶ関見学デー」（文部科学省主催）では、厚生労働省の会場において出張展示を行う（例年2日間開催）。

4 展示事業

(1) 常設展示

長期展示による資料の劣化を避け、より多くの方々の寄贈資料を紹介するため、常設展示室を休室して資料の入替と清掃作業を行う。1回目は令和3年6月28日（月）から30日（水）まで、2回目は令和4年1月29日（土）から31日（月）に実施する。休室期間に、展示パネル及び展示什器の更新も併せて行う。

(2) 特別企画展

①「丈夫なからだで病を防げ！～健康づくりと感染症予防～」（仮称）（再掲）【資料6】

○開催期間

令和3年3月13日（土）～5月9日（日）

○会場

昭和館3階 特別企画展会場

○後援

千代田区、千代田区教育委員会

○内容

健康を維持し、免疫力を高め、丈夫な身体をつくることは、充実した生活を営むための根幹ともいえる。人が「健康」を得るための取り組みは、時代の変容によってその目的も変わっていきます。この企画展では、昭和における「健康」「からだづくり」をテーマとして取り上げ、病気と快復、運動とからだづくり、食生活と栄養、厚生事業等に関わる資料を紹介する。

② 「昭和ポスターグラフィック ～商業美術からグラフィックデザインへ～」(仮称)

○開催期間

令和3年7月17日(土)～9月5日(日)

○会場

昭和館3階 特別企画展会場

○後援(申請予定)

千代田区、千代田区教育委員会(申請予定)

○内容

昭和館所蔵のポスターコレクションを軸に、グラフ雑誌や商品パッケージなどの展示を交えて、昭和初期の商業美術の時代から戦後にグラフィックデザインが確立されるまでの、昭和のデザインの移り変わりを紹介する。

③ 「SF・冒険・レトロフューチャー×リメイク」展(仮称)

○開催期間

令和4年3月12日(土)～5月8日(日)

○会場

昭和館3階 特別企画展会場

○特別協力

講談社(申請予定)

○後援(申請予定)

千代田区、千代田区教育委員会(申請予定)

○内容

新型コロナウイルス感染症の拡大防止にともない、令和2年3月に開催中止となった特別企画展「SF・冒険・レトロフューチャー～ぼくたちの夢とあこがれ～」を再構成した展覧会。少年雑誌などで活躍した挿絵画家たちの画業を紹介し、戦中・戦後の子どもたちが、科学や宇宙、未来へと胸を躍らせた少年文化の移り変わりを紹介する。

(3) 巡回特別企画展

① 「くらしにみる昭和の時代 兵庫展」

○開催期間

令和3年10月7日(木)～10月17日(日)

○会場

兵庫県立美術館ギャラリー棟3階(神戸市中央区脇浜海岸通1丁目1番1号)

○共催

神戸大学 大学文書史料室

○協力・後援等(予定)

協力 一般財団法人兵庫県遺族会および日本遺族会第3ブロック

後援 兵庫県 兵庫県教育委員会 神戸市 神戸市教育委員会 神戸新聞社 NHK神戸放送局 サンテレビジョン ラジオ関西 Kiss FM KOBE(申請予定)

○内容

戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世に伝えるため、実物資料・写真資料・映像資料等を通じて、困難が多かった時代における人々のくらしを紹介する。

② 昭和館・しょうけい館・平和祈念展示資料館 3館連携企画展(仮)

○開催期間

令和3年10月29日(金)～11月7日(日)

○会場

松江テルサ(松江市朝日町478-18)

○協力・後援等(予定)

・協力 一般財団法人島根県遺族連合会および日本遺族会第4ブロック

・後援 島根県 松江市 島根県教育委員会 松江市教育委員会 朝日新聞社松江総局 毎日新聞社松江支局 読売新聞松江支局 産経新聞松江支局 中国新聞社松江支局 山陰中央新報社 新日本海新聞社松江支社 島根日日新聞社 NHK松江放送局 山陰放送 日本海テレビ 山陰中央テレビジョン放送 エフエム山陰 山陰ケーブルビジョン(申請予定)

○内容

戦後生まれの世代が大多数を占める今、戦中・戦後の労苦について国民への理解を深め、次の世代へ語り継ぐため、東京の3つの国立の施設が合同で展示を行う。

(4) 写真展(2階ひろばにて)

令和2年3月20日(土)から5月9日(日)まで「マンガ『風太郎不戦日記』を通して知る戦時下のくらし」(仮称)と題した写真展を予定している。漫画家勝田文が描いた『風太郎不戦日記』の誌面を通じた戦時下のくらしと作家山田風太郎と同時代を生きた男子学生たちの青春を所蔵写真から紹介する。(※資料7)

秋と来春については所蔵写真の中からテーマを決めて実施していく。

5 資料収集

(1) 実物資料の収集

令和2年度に引き続き、収蔵庫の整理を進める。資料収集については、長期的な展望に立ち、資料情報を慎重に精査した上で受入れを検討する。資料修復は従来通り進める

(2) 文献・図書資料の収集

戦中・戦後の生活関連図書および戦争に関する基本的図書等約2,000冊の新刊書および古書の購入を目標としており、特に戦中・戦後の国民生活に関する図書資料の一層の充実を図る方針を継続する。利用者からの閲覧要望が多い『少年倶楽部』『少女倶楽部』『婦人倶楽部』など当時愛読された雑誌の欠号 補充を行うとともに、昭和館収蔵図書の一つの特徴である手記や体験集、戦中・戦後にかけての日本各地の写真集や児童書などの収集に力を入れていく。また、昭和館 HPやチラシ等による資料寄贈の呼びかけは継続して行う。

(3) 映像関連資料の収集

特別企画展や昭和館懐かしのニュースシアターをはじめ、特別上映会、資料公開コーナーなどでの活用を充実させるため、令和3年度においても「日本ニュース」を中心に、戦中・戦後の国民生活に関する動画や静止画の収集を行う。

(4) オーラルヒストリーの制作

体験者の証言を映像で記録して残すとともに、資料公開コーナーや巡回特別企画展、貸出キットなどを通して公開していくことを目的に制作している。開館前に制作した50作品と、平成16年度～令和2年度に制作した303作品がある。

令和3年度においてもその充実をはかるとともに、戦中戦後の苦しかった生活の実態や戦後復興にご苦労された方の証言も加え、全体的に内容の充実を図る。

6 戦中・戦後の労苦を伝える語り部育成・活動事業

引き続き第3期生に対し、語り部育成のための研修等を実施。

令和3年度中に第3期生が研修を修了し、第1期生及び第2期生とともに講話活動を実施する予定。

7 情報検索システムの充実

(1) 図書・雑誌資料のデータ入力

図書・雑誌の検索や閲覧のため、令和2年度に購入及び寄贈を受けた図書や雑誌約2,000冊の装備と書誌データ・目次データの入力を行い、来館者が利用できるようにする。

(2) デジタル雑誌システムのデータ作成

戦中の『毎日新聞』をはじめ、資料の破損などによって原本を提供することが難しい資料、さらにデジタルデータでの提供に移行した方がよいと思われる雑誌を中心にデジタル化を進めていく。

(3) SPレコードのデジタル化

引き続きレーベル画像及び音源のデジタル化を行いアーカイブにて公開していく。音源デジタル化については来館者からのリクエスト等を優先して実施する

(4) 映像資料のデジタル化

米国国立公文書館から入手した映像フィルムは、開館前の平成6～9年にデータ化を行ったため、フルハイビジョン対応の来館者用検索端末であるにも関わらず、提供している画像は粗く見にくい状態である。来館者用端末のみならず、イベント等による大画面での提供も考慮し、高画質な映像が提供できるように引き続きフルハイビジョン化を実施していく

(5) 写真資料のデジタル化

令和元年度に大量に入手したカメラマン・師岡宏次氏の写真の整理を進め、順次デジタル化を進め館内アーカイブにて公開していく。その他、入手した写真については調査を行うとともにデジタル化を行い、来館者へ提供していく。

(6) SNSの活用

ツイッターやフェイスブックを活用し、ニュースシアターの番組紹介、図書室での資料紹介等を随時アップして来館者の利用促進を図る。

8 資料の公開・展示

(1) 昭和館懐かしのニュースシアター

収集したニュース映画を「昭和館懐かしのニュースシアター」で毎日上映しており、令和3年度も引き続き、実施する。令和元年度に購入した未公開の「日本ニュース」作品を加え、既にも上映した作品を併せて順次公開する他、昨年度制作したオーラルヒストリーについても上映していく。

また、ゴールデンウィーク期間中には特別上映会等を開催し所蔵資料を広く紹介していく

(2) 資料公開コーナーの運用

所蔵している資料を多くの方に見ていただくことを目的に、1階ロビーの「資料公開コーナー」で、写真、映像、SPレコード、図書・雑誌などを紹介する展示を継続して行う。話題の事柄等をテーマに取り上げて、年4回程度の展示を行う。

(3) 館内の検索システム

収集した図書資料をはじめ、映像資料、静止画資料、音響資料などのデータ化を行い、館内の検索システムで順次公開していく。

(4) 資料紹介

図書室では、テーマを設定した関連資料の紹介を定期的に行うとともに、時事的なトピックや特別企画展や写真展等に関連する資料については随時紹介していく。

また、夏休みには子ども向けワークシート等を作成し、小・中学生の利用促進を図る。

9 関係施設との連携

(1) 関係施設等連携会議の開催

戦中・戦後の労苦について国民への理解を深め、戦争を知らない世代への継承を図るため「昭和館」「しょうけい館」「平和祈念展示資料館」が連携して事業を推進する。

年2回関係施設等連携会議を実施予定。

(2) 「夏休み3館めぐりスタンプラリー」の実施

引き続き、夏休みの児童・生徒を対象として令和3年7月から9月まで「夏休み3館めぐりスタンプラリー」を実施予定。

(3) 巡回特別企画展の相互協力

島根県における巡回特別企画展（「しょうけい館」、「平和祈念展示資料館」と「3館連携企画展」）の開催

令和3年10月29日（金）～11月7日（日）

(4) 移動教室（千代田区立九段生涯学習館）について

平和祈念展示資料館が実施予定の移動教室と連携した資料展示等を行う。

10 運営専門委員会の開催

昭和館運営事業について有識者から様々な意見を聴取するため、令和3年度も昭和館運営専門委員会を2回開催予定。